

様式 4

令和 8 年度第 1 回 富士見市図書館協議会 議事録						
日 時	令和 8 年 6 月 1 2 日（金）		開会	午前 1 0 時 0 0 分		
			閉会	午前 1 1 時 1 5 分		
場 所	中央図書館 レセプションルーム					
出 席 者	委 員	木下委員長	野澤委員	西村委員	黒澤委員	今井委員
		○	○	○	○	○
		神馬委員	内海委員	藤巻委員	戸田委員	向井委員
		○	×	○	○	○
	事務局	○教育委員会生涯学習課 隈本課長 田代主査 田中主任 ○図書館 長谷川中央図書館長 宮崎中央図書館副館長 大里鶴瀬西分館長 本田ふじみ野分館長				
公 開 ・ 非 公 開	公開（傍聴者 2 名）					
次 第	図書館協議会 1. 開会 2. 各館事業報告（令和 8 年 2 月～令和 8 年 4 月活動報告） 中央図書館・鶴瀬西分館・ふじみ野分館 3. 電子図書館の利用状況とセカンドブックについて 4. その他 5. 閉会					
配 布 資 料	・ 富士見市図書館協議会 令和 8 年度 6 月定例会次第 ・ 令和 8 年 2 月～令和 8 年 4 月活動報告（中央図書館・鶴瀬西分館・ふじみ野分館） ・ さざなみだより 2 0 2 6 年 4 月号・ 5 月号・ 6 月号 ・ とびらしんぶん 2 0 2 6 ねん 4 がつ・ 6 がつ ・ BOOK ADVENTURES 第 2 5 8 号 ・ つるせにししんぶん 2 0 2 6 年 4 月号・ 5 月号・ 6 月号 ・ ぶんちゃんしんぶん 2 0 2 6 年 4 月号・ 5 月号・ 6 月号					

議 事 内 容	
委員長	図書館協議会会議 1. 開会 2. 各館事業報告（令和8年2月～令和8年4月活動報告）
図書館	【中央図書館】 ・資料に基づき報告 お話会や映画会等の数字などは資料の活動報告の通りである。 自主事業の報告 「としょかんクラブ」 2月、3月のとしょかんクラブは活動の集大成で、1年を振り返り、次年度のとしょかんクラブ募集のメッセージやポスターを作成した。1年間の活動をととても楽しんでもらえたようで、継続を希望するメンバーが多くいた。4月は新年度のメンバー募集のために活動はなし。現在、昨年度から継続して活動しているメンバーもいる。 3月 「リブーン実証実験」 富士見市立図書館3館合同で実施をした。「リブーン」とは移動図書館車で、軽トラックをカスタマイズしたもの。側面が開き図書館の本を最大500冊載せ、図書館から離れた場所でも資料の提供ができる。今回の実証実験では、キッズガーデンきらり保育園、ふじみ野保育園、慶櫻ふじみ保育園にご参加いただいた。 キッズガーデンきらり保育園と勝瀬原記念公園へ出向き、お話会実施後にリブーンに積載した本を自由に読む時間を作り、本と触れ合ってもらった。可愛らしいラッピング車にたくさん本が載っている様子を目を引かれ、楽しく本を手にとってもらえた。こういった楽しい体験を通じて本や図書館に興味を持ち、今後の利用につながればよいと思う。図書館から遠方にお住まいの方の需要も考えられるが、運用を進めるにはいろいろ課題もあるので、それを踏まえての市との検討が必要になる。 「ぬいぐるみおとまり会」 毎年人気のイベントで、子どもたちのお気に入りのぬいぐるみを一晚図書館に預かり、ぬいぐるみたちが本を読んだり遊んだりして過ごす様子を撮影する。後日、その写真をアルバムにして子どもたちへ渡すと、自分の大切なぬいぐるみが図書館で楽しむ姿を見て喜ぶ様子が見られる。子どもたちが図書館に親しみを持つきっかけとなっている。

図書館	「あったかいイベント in つるせ」 鶴瀬公民館のイベントで、中央図書館と鶴瀬西分館が参加した。“あったかい”をテーマにしたイベントで、中央図書館は本の展示やカフェトークでおすすめの本を紹介した。幅広い年齢層の方がお見えになり、普段図書館に来られない、利用されない方にも、図書館のアピールの場になった。とても和やかな雰囲気楽しんでいただいた。 「渋谷定輔文庫資料を読む会」 富士見市立図書館が所蔵している渋谷定輔文庫の中でも普段見ることができない貴重な資料を読むことができる会となる。資料を読み、当時の様子を参加者で話し合うなど意見を交換した。改めて貴重な資料を残す価値を感じる。 4月 「としょかんたんけんツアー」 鶴瀬公民館が主催している子どもフェスティバルの共催として開催した。普段入ることのできない書庫や、渋谷定輔文庫の貴重な書庫も含めての図書館巡りとなるため、2階、3階の書庫にたくさん並んでいる本を見ると驚きの声上がることもあった。また、検索機や拡大読書機の説明や、図書館に様々な種類の本があることなど図書館のことを知ってもらえる良い機会になっている。 【鶴瀬西分館】 ・資料に基づき報告 お話会や映画会等の数字などは資料の活動報告の通りである。 自主事業の報告 2月 「にしちゃんのぬりえをやってみよう」 鶴瀬西分館の公式キャラクター「西ちゃん」は、初代の図書館YAサポーターが考案した「本の妖精」である。 今回のイベントでは、キャラクターの後ろはあえて無地にし、自由に背景を描いてもらえるようにした。絵を描くのが好きな子どもたちが様々な背景を描いてくれた。個性あふれるぬりえがたくさん集まり、来館者だけでなくスタッフも大いに楽しませていただいた。今後は、この「ぬりえ」を活用したさらなる取り組みの広がりを検討していく。
-----	---

3 月

「あったかイベント i n つるせ」

鶴瀬公民館連携事業。鶴瀬公民館から参加依頼を受け、初めて図書館 Y A サポーターが出張イベントに参加した。「あたたかい」を共通テーマに選書した展示棚を設置し、手作りの P O P を添えて来館者と本を交えた会話・交流を楽しんだ。

その後、「一卓図書館」の館長が本について語り参加者との交流を図った。

当日は、学校司書ブース、中央図書館ブースと並んで鶴瀬西分館も 1 ブースを出展し、鶴瀬公民館の中庭から流れてくる多くの来館者で賑わった。

「スペシャルおはなしかい 子育て相談付」

これまでも進めてきた保育士との連携をより深め、子育て世代が気軽に足を運べる新たな取り組みとして、定例の「乳幼児向けおはなしかい」の後に「育児相談」の時間をお試しで設けた。

普段のささやかな育児の悩みでも気兼ねなく話せるよう、お話を通じてお互いの顔が見える、温かくアットホームな雰囲気作りを意識した。通常であれば 30 分程度で終了するお話会だが、当日は工作や遊びを交えながらゆったりとした時間を創出した結果、時間を気にせず過ごしていただける、心地よい空間を提供できたと感じている。

司書は育児を専門とする仕事ではないが、図書館は「親子が集まる場」であり「育児関連の本が豊富にある場」、そして「人と人との連携を提供できる場」である。だからこそ、日々育児に励む保護者の皆様のお悩みに対し、本を通じた情報提供や、地域の専門機関・サービスへと繋げる役割を果たすことができた。この図書館ならではのアプローチが、子育て支援における大変有意義な成果につながったと考えている。

「としょかんボードゲームクラブ」

近年注目されているボードゲームを通じ、コミュニケーション力や論理的思考力を養うとともに、継続的な図書館利用を促す目的で実施している。3 月はメンバー入替の時期のため、新しく加入した図書館 Y A サポーターの顔合わせも兼ねて、小学生を中心とした来館者と様々なゲームを囲み、幅広い世代間交流を楽しんだ。

4 月

「24 は西の日」

「毎月 24 日は西の日」として来館を促す周知企画を開催している。昨年度の入口展示に加え、今回は隣に特製しおりを設置した。今後は鶴瀬西分館だけでなく富士見市立図書館全体の情報発信への発展を目指している。

図書館	「図書館団体利用 おはなしかい」 新年度新クラスの団体利用のため、今回は事業報告として報告をする。 子どもたちが多くの本と出会う機会を作るため、新年度に「キッズガーデンきらり：さんクラス」の団体利用お話を実施した。天候の不安や遠方からの来館で園児の来館は難しいこともあるが、来館して水分補給など済ませお話会が始まると園児たちは非常に集中して聞き入り、その後は館内で自由に本を読んだ。今後は、遠方の園でも利用しやすい貸出方法の検討など、さらなる連携協力を進めていきたい。 【ふじみ野分館】 ・資料に基づき報告 お話会や映画会等の数字は資料の活動報告の通りである。 活動報告について2点補足あり。 ・ふじみ野交流センターとの外部連携だが、月に1度ふじみ野交流センターで開催している学びの講座、「ふじみ野じゅく」の内容に合わせて展示を行っている。 ・テーマ展示の中で「スタッフおすすめ」のコーナーがあり、毎月5日と20日に更新する。ふじみ野分館スタッフ各々がその時のおすすめ本の紹介を書き、関連資料も併せて展示をしている。 自主事業の報告 2月 「耳をさわるだけ！耳つぼ講座」 定員20名に対し23名の申込みがあり、前回同様定員を上回る申込みが続いている。担当講師が参加者一人ひとりに丁寧に指導し、耳に触れながら実践する形式が大変好評であったため、今後も定期的な開催を検討している。 「ぶんちゃんひろば2月 ふしぎ発見！身近なものに隠された科学のヒミツ」 幼児から小学生を対象に毎月開催している学びの場である。今回は勝瀬中学校科学部の協力を得て、2つの科学体験を実施した。内容は、野菜の色素を利用した実験と、ペーパークロマトグラフィーの観察であり、参加者は色の変化を楽しみながら学ぶことができた。アンケートでは「勝瀬中学校に通ったら科学部に入りたい」という声が寄せられるなど、非常に高い満足度が確認された。今後も地域の小中学校と連携しながら、継続的に学びの機会を提供していく。
-----	---

	「第24回（令和7年度）ふじみ野文化祭 知的書評合戦ビブリオバトル」 勝瀬中学校、富士見高等学校にご協力いただいてビブリオバトルを実施した。 参加者は事前準備を十分に行い、本の魅力だけでなく読後の気づきや実生活のエピソードを交えた発表を行った。物語の結末を明かさずに魅力を伝える工夫も見られ、ビブリオバトルのキャッチコピー「人を通して本を知る、本を通して人を知る」を体現する内容となった。観戦者からも積極的な質問が寄せられ、双方が主体的に参加する場となった。投票集計中には富士見高等学校チアリーディング同好会「A i R y s」がパフォーマンスを披露し、会場が大いに盛り上がった。 3月 「第24回（令和7年度）ふじみ野文化祭 ワークショップ まほうのステッキをつくろう」 地域の方が多く集うふじみ野文化祭にて、読書のきっかけづくりとしてワークショップを開催した。まず紙芝居の読み聞かせを行い、その際に魔法のステッキを使うことで参加者の好奇心を刺激し、おはなしの世界に入り込む体験ができるよう促した。紙芝居も一緒に楽しんでもらい、図書館への誘致もつながったと思う。 「薬膳講座 日々の健康と笑顔はキッチンから～旬の恵みで整える、冬春の薬膳～」 薬膳講座は今回も大変好評だった。講師から体の変化や季節に応じた食材選びについての説明があり、参加者はおすすめ食材を使った簡単な薬膳料理を実際に調理し、試食しながら学んだ。本講座は3回目の開催で、次回の第4回は9月実施予定である。今後も体に良い食を学べる実践的な講座として継続していく。 「ふじみ野小学校あおぞら学級訪問」 本年度の学校連携として、ふじみ野小学校のあおぞら学級へ1年間を通して大型絵本の貸出を実施した。 週1回の大型絵本の貸出を継続した結果、児童が「言葉に耳を傾ける姿勢」を身につけてきたとの評価を先生よりいただいた。 活動の最終日にはお話会を楽しんでもらい、児童から手作りの花束をいただいた。児童の温かい気持ちに触れ、学校と図書館の連携の意義を改めて実感する機会となった。 「アニメーション ルラルさんのにわ」 慶櫻ふじみ保育園にて実施した。「アニメーション」は、スペイン語で「活性化」「命を吹き込む」といった意味を持つ。この手法を用いた
--	--

	読書体験として本をゲーム形式にアレンジし、遊びを通して子どもの理解力・読解力・想像力を育むことを目的としている。 今回は作中の絵を記憶するという少し難しい課題だったが、子どもたちはルールを理解し集中して参加してくれた。子どもたちはゲーム感覚で本に触れ、絵本の楽しみ方が広がったと思われる。 「ぶんちゃんひろば3月 ハーブでつくるイースターエッグ」 親子でハーブに触れることを目的とした講座として、イースターに合わせたイースターエッグづくりを実施した。イースターエッグの認知度が低く最初は申込が伸び悩んだが、最終的に定員10組のところ8組が参加した。 卵に入れるハーブの香りを体験することで、植物への関心を高める機会にもなった。資料紹介にも耳を傾けてもらい、貸出にもつながった。 4月 「ぶんちゃんひろば4月 たっぷり楽しむアニメーション」 参加したお子さんや保護者の方々が積極的に札を上げ、正解・不正解の流れを楽しみながら参加している様子が見られた。毎回継続して参加して下さるご家族も増えており、1回ごとに満足してもらえそうな内容づくりの重要性を改めて感じた。 絵本を中心にした今回のようなアニメーションは、参加者の反応も良く、今後も継続して実施していきたい。
委員	【質疑応答】 3月の移動図書館の訪問をきっかけに、子どもたちの興味が大きく広がった。特に宇宙の図鑑が刺激となり、年長児を中心に自主的な調べ学習や図鑑収集が続き、6月まで活動が発展した。 図書館に足を運ぶ機会が少ない家庭も多い中、移動図書館が「本と出会うきっかけ」となり、保育園側からも「また来てほしい」との声が多く上がった。車が開く瞬間には子どもたち、職員ともに歓声が上がり、非常に好評だった。
図書館	今回は実証実験だったため車両は事業者所有のものを借用した。以前富士見市にあった移動図書館車より小回りが利き、園庭に入って実施できた点が特徴である。 搭載冊数は約500冊で、絵本・児童書を中心にお持ちした。職員向けに保育雑誌等も用意し、読み聞かせや保育の参考として好評だった。 当日は年長児への貸出も実施し、子どもたちがその場で本を借りる良い機会となった。

委員	市内の書店が1店舗のみとなり、移動図書館は「多くの本に触れる貴重な体験」として高く評価できる。
委員	中央図書館の「渋谷定輔文庫資料を読む会」では、アナキズム系雑誌・図書を取り上げているが、専門性の高い資料であるものの参加者の反応や内容はどのようなだったか。
図書館	参加者からは「ここでしか読めない資料に触れられる貴重な機会」として高い評価が得られている。 渋谷定輔文庫は図書館開館当初から設置されており、3階書庫には渋谷定輔著作だけでなく、収集した雑誌、手紙、新聞、ミニコミ誌など多岐にわたる資料が収蔵されている。総点数は4～5万点に及び、現物で閲覧できる資料も多いことから、読書会でもその価値が活かされている。
委員	以前、渋谷定輔が収集した資料の中に他館では所蔵が確認できない資料も含まれており、『苦海浄土』の著者石牟礼道子の資料を富士見市まで探しに来られた研究者もいた。研究者が全国を探しても見つからず、富士見市で発見された例もある。
図書館	6月7日付の読売新聞で渋谷定輔文庫が紹介されたほか、国立歴史民俗博物館の展示でも資料が取り上げられるなど、外部からの注目も高まっている。 一方で、資料の多くは劣化が進んでおり、特に新聞類は触れるだけで破損する状態のものもある。中性紙での保護など応急処置を行っているが、長期保存には限界があるため、現在デジタル化に向けた予算確保を求めている。今後も資料の活用と保存を両立させながら、地域における文化資源としての役割を努めたい。
委員	図書館と公民館の連携による地域イベントは大変良い試みであり、継続する価値があると感じた。 鶴瀬西分館が子育て相談の橋渡し役を担っている点は、地域支援として非常に意義深い。勝瀬中学校との継続的な連携や、ふじみ野交流センターでのイベント活動など、地域資源を生かした取り組みが評価できる。 中央図書館の展示ホールでの各展示に合わせて、特定の主張に偏らず、関連テーマを多角的に学べる書籍紹介コーナーを併設することはできるか。 6月に中央図書館の障がい者サービス担当による「ふじみ苑」訪問活動についても、詳細や取組の報告を聞かせてほしい。

図書館	展示ホールに関する提案については、盗難防止ゲートの構造上、展示スペースに本を置くことが難しい状況がある。それ以外の市の各課との連携として関連書籍の紹介は館内でのミニ展示という形で対応しており、現在は食育や歯の健康、夏季には戦争と平和をテーマとした展示を実施している。 障がい者サービスに関しては、「特別養護老人ホームふじみ苑」へ訪問し、音訳者による雑誌や本の読み聞かせ支援を実施した。デジタル図書を再生する機器「プレクストーク」を持参し、利用体験の機会を提供したところ、音声資料を楽しむ利用者の姿が見られた。さらに、音訳者の養成講座やスキルアップ講座を継続して実施し、『なんばた城だより』を作成し、音声データは電子図書館で公開する方向で調整を進めている。また、録音図書を制作し、国会図書館等へ提供することで全国の利用者が活用できるように取り組んでいる。
委員	公共図書館の本質的な役割は、特定の意見・思想に偏らず、市民が多様な資料に触れ、自ら判断できる環境を提供することである。市民がより広い視点で情報にアクセスできるように努めてほしい。
図書館	3. 電子図書館の利用状況とセカンドブックについて 昨年度より、市内公立小学校の全児童に電子図書館のIDパスワードを付与し、学校配布のタブレット端末から利用できる環境を整備した。その結果、利用者は40～50代を除くと7～12歳の小学生が最も多く、読み放題コンテンツの閲覧が特に伸びている。一方で、中高生の利用は依然として低く、今後の課題となっている。 閲覧統計では、富士見市が作成した絵本『ぼくの☆を知りませんか』が年間1,159回と最も多く、富士見市作成のお散歩マップや農業マップなども上位に入った。これらはログイン不要で閲覧できるため、学校や地域で活用されていると考えられる。なお、電子図書館が未利用の学校もあり、今後も周知を継続する。 また、平成25年度から市内小学生に対して図書館利用カードの作成を開始し、令和2年度以降は市内全小中学生がカードを所持している。さらに、新1年生へのセカンドブック事業として、図書館が選定した本を配布してきたが、令和4年度からは4冊の中から選択できる方式へ変更した。現在は二次元コードによるアンケート集計を導入し、効率的に発注・配布を行っている。今年度も約900冊を各校へ配布済みであり、今後も継続して実施していく予定である。
委員	電子図書館については、学習ツールとしても活用されているようで、利用統計からも子どもたちが楽しんで利用している様子がうかがえる。 一方で、中学生以降の10代の利用が伸びていない点については、朝読書やタブレット端末の活用と組み合わせ、興味を引く作品が電

図書館	子図書館で読めることを周知することで、利用促進につながるのではないかと。 セカンドブック事業については、国語教科書に掲載されている作品との関連を意識して選書しているようで、絵本として読める利点もあるかと思われる。 セカンドブック事業では、児童が選べる幅を広げるため、読み物だけでなく知識本も含めた4冊から選択する方式を導入している。兄弟間で同じ本が重複する課題に対応するため、選書内容は数年ごとに更新している。また、健康増進センターのブックスタート事業でも同様に選択制を導入している。電子図書館では13歳を境に利用が減少する傾向があり、部活動等で来館が難しい中学生に対しては、時間外でも利用できる電子図書館の周知を強化していく必要がある。今後も図書館主体で選書の質を高めつつ、児童生徒の読書機会を継続的に支援していく。
図書館	4. その他 「第5次富士見市子ども読書活動推進計画」について。現行の「富士見市子ども読書活動推進計画」は令和9年度で終了予定であり、今後は次期計画の策定に向けた準備が必要となる。これに伴い、今後の読書活動の方向性を検討するうえで、皆さまからの意見を求めている。
生涯学習課	前回の計画策定時と同様に、次期計画についても協議会で構成案や内容を市から提示し、意見を受けながら段階的に改善していく方針である。現時点では具体的な時期やスケジュールは未定だが、今後も協議会を通じて内容を共有しながら計画づくりを進めていく。 次回図書館協議会開催日程 次回は9月11日（金）午前10時から中央図書館のレセプションルームにて行う。 5. 閉会